

# た い や ま

【学校教育目標】  
『心身ともにたくましく  
人間性豊かな児童の育成』

## 「児童会まつり」

12月2日(火)3校時に実施。

「児童会まつり」とは、縦割り班対抗のゲーム大会(長縄跳び、新聞紙乗り、しっぽ取り)で子どもたちが楽しみにしていた行事です。

児童会長の〇〇さんが、「児童会まつりは仲良く交流することが目的で行います。どの班も練習の成果を出してください。」と挨拶して始まりました。閉会行事では、各学年代表が「楽しかった。」「仲が深まった。」「一生懸命がんばった。」などの感想を述べていました。



### 【結果】

第1位	1班	140点
	11班	140点
第2位	2班	130点
	10班	130点
第3位	12班	130点
	3班	125点
	4班	125点

## 『八戸・久慈自動車道整備促進住民大会』

この八戸・久慈自動車道が、文化交流を広げる道路として、久慈市の発展を支える道路として、早く完成することを願っています。

僕たちの住む久慈市は、うにや短角牛、ほうれん草などのおいしい食べ物と、それを育てる豊かな自然が数多くあります。また、理科の学習で見学した半崎の地層や久慈琥珀など、貴重な地層や鉱物を見ることが出来ます。この久慈市を含む八戸市から宮城県気仙沼市までの三陸地域は、昨年九月、「三陸ジオパーク」に認定されました。

久慈市立平山小学校 〇〇〇〇

私達の未来を拓く道づくり

12月6日(土)、久慈市立小学校の代表として本校の〇〇君(6年)が参加しました。

この住民大会は、「東日本大震災からの早期復興と21世紀の地域の発展を支える『八戸・久慈自動車道』の整備促進と整備後の活用について、地域住民の意識の醸成を図る。」目的で毎年開催されています。

オープニングセレモニーでは、沿線市町村の代表小学生6名と市町村長が一言メッセージを述べました。

〇〇君も久慈市代表として堂々と発表し、遠藤市長も誉めていらっしゃいました。



発表内容は学級の子どもたちがみんなでアイデアを出して文にまとめたそうです。とても、すばらしい内容だと感じました。

## 合奏団引き継ぎ練習



平山小学校の伝統的な活動の一つに「合奏団活動」があります。4年生から全員が団員としてスタートするのですが、まずは「鍵盤ハーモニカ」で、「平山讃歌」のパートをすらすら演奏できるようになることが最初の目標です。

毎年、この時期から5年生が自分の受け持った4年生に教えていますが、3学期になると今度は6年生が自分の楽器を引き継ぐ5年生に教えます。

「平山讃歌」という1つのレパートリーだけですが、引き継ぐ側も引き継がれる側も真剣な表情で頑張っています。

この歌は、当時6年生だった〇波〇由〇さんが作詞し、〇橋〇か〇さん

と〇松〇緒〇さんが作曲したものです。

『平山讃歌』

一 丘にそびえる  
学びやに  
歌うみんなの  
声ひびく  
みどりの風に  
夢のせて  
心を合わせて  
歌おうよ

二 夏井川の  
せせらぎに  
百年間の  
歴史あり  
とわの流れを  
祈りつつ  
未来に向かって  
進もうよ

〇緒〇さんが作曲したものです。

## 『インターネットに潜む危険』 ～久慈地域生徒指導推進協議会研究大会の講話より～

12月4日(木)、岩手県警サイバー犯罪対策室特捜補佐 〇〇氏の講話を聴きました。

「スマートフォンの所持率は、小学生で約38%、中学生で約55%、高校生で約88%で、ネットで知り合った人物と週に数回以上、連絡を取り合っている子どもが半数いる」とのことです。また、ラインのIDやパスワードを乗っ取り、なりすましによる詐欺(ネットマネー購入)にあたり、いじめ被害を受けたりと、時間を浪費し学業に専念できないばかりか深刻な事例が増加しているようです。

さらには、インターネットに繋がる機器はゲーム機など様々あり、たいていが写真撮影できて、インターネット上に簡単に投稿できるようになっています。多くの子どもたちが世界中に広がるインターネットの不特定多数に自分の個人情報さらけ出している状況だということです。

〇〇氏は、インターネットを利用することは悪いことではないが、子どもが容易に被害者にも加害者にもなりうることを大人が認識し、「放任主義」にならないことが大切だと力説していました。

そして、クリスマス日に13歳の息子にiPhoneを買ってあげたお母さんの息子との使用契約書(約束)が今アメリカで話題になっているとの紹介がありました。「スマホを使うための18の約束」で検索するとその内容が表示されます。お子さんにスマートフォンなどを所持させる際に参考になると思います。

## お願いします



冬期間、平山坂は圧雪、凍結するととても滑りやすく危険です。

児童には、道路を横断する際に、「止まって、左右の安全確認」をするように、再三指導を繰り返していますが、二人、三人で会話に夢中になっていると安全確認を怠る光景も時々見られます。

通過するスピードも速かったり、児童が立っていてもスピードを緩めず通過する車も珍しくありません。路面が凍結したときには、毎日のように砂を撒いていますが、「車は急に止まりません!」、「子どもは急に飛び出します!」という認識でスピードを控えた安全運転をよろしくお願いします。